

2 神戸まちづくり協議会



「よりよく、住みやすいまち 神戸」

1 神戸まちづくり協議会

神戸地区は、城下町・宿場町として栄え、今も市役所が あり鈴鹿市の中心地となっています。また、NHKのブラタモリでも紹介された「もち久の立石餅」「あぶい旅館」など、魅力あふれる街です。
神戸まちづくり協議会は、現在及び将来の神戸に関わる、すべての人々のために、文化伝統を守り、中核団体・地域住民・地域で活動する各種団体・事業所・関係機関等が連携し「よりよく住みやすいまち神戸を目指すまちづくり」を推進することを目的に活動しています。

2 主な取組

神戸まちづくり協議会では、「よりよく住みやすいまち神戸」を目指し、6つの部会に分かれて様々な事業を行っています。

地域活性化・環境改善部会・・・チャリティーコンサートの開催
スポーツ振興・青少年育成部会・・・スポレク大会の開催
文化教育・広報部会・・・地域の危険個所に交通弱者対策として注意喚起看板の設置
自主防犯・防火部会・・・防災訓練 など



神戸城跡



敬老会のように

3 今回紹介するのはこの事業！

今回は、神戸まちづくり協議会と神戸高校が協力し、実施している事業の中で、まちづくり協議会主催の「KAMBEふれあいチャリティーコンサート」、神戸高校放送部と共催の「神戸公園イルミネーション」の2つを紹介します。



4 どんな課題や思いがあるの？



人と人との繋がりが希薄になってきている時代ですが、地域の人との交流の機会をつくり、イベントを通して繋がりを深めてほしいです。地域の活動は、企画も参加も、時間に余裕のある大人の方がすることが多い印象ですが、若い人も自ら希望して参加したくなるような企画をしたいと考えています。

交流の場にするためには、まずはたくさんの人に来てもらわないといけなないので、事業の内容を考えるのはとても大変でした。今年のチャリティーコンサートでは神戸にゆかりのあるピアニストをゲストに招いたり、地域のこども食堂などに寄付するためのフードドライブポストを設置したりしました。イルミネーションでは電飾の数を増やし、光のトンネルでフォトスポットを作るなど、どちらのイベントも毎年パワーアップしています。

神戸には、住んでいる人も気づいていない魅力があると思うので、イベントを通して神戸の魅力に触れ、「すごいじゃん神戸」と感じてほしいです。

5 その事業が生まれるまで！

コロナ禍で人と人との交流が減り、公園の利用者も減り、寂しくなってしまう街を少しでも活気づけたいと考えたことがきっかけで、令和3年からコロナ禍でも実施できるイルミネーション事業が始まりました。そして、神戸のみんなが交流する機会をもっと増やしたいと、令和5年からチャリティーコンサートを実施し、さらに活動が広がりました。

◆ チャリティーコンサート



神戸ゆかりのピアニストの生演奏



たくさん集まったフードドライブ

◆ イルミネーション



工夫を凝らした光のトンネル



幻想的な夜の神戸公園

6 その事業に参加した人の声



・チャリティーコンサートに参加
吹奏楽や合唱、ピアノ演奏など、普段は生で聴くことがあまりないので新鮮でした。高校生が頑張っている姿を見て、元気づけられました。



・イルミネーションに参加
普段何気なく散歩している公園がきれいにキラキラ光っていて、気分が上がりました。寒い中でしたが、点灯式で一斉に電飾がついた瞬間は感動しました。